

滝川駅周辺地区再生整備基本構想（原案）に関するよくある質問（FAQ）

R6. 2. 26更新

<基本構想全般に関すること>

1 市の財政は、駅周辺事業を実施しても大丈夫なのでしょうか？

本市では、駅周辺整備事業のみならず、様々な住民サービスを進めていくためにも、財政基盤の安定性確保を目的とした財政運営基本方針（R6～R8）を定めるほか、滝川市個別施設計画前期計画の見直しによって、財政状況に応じた事業の平準化を図り、過度な将来負担が発生しないよう取り組んでいます。

そうした中、駅周辺整備事業については、ふるさと納税などにより市内公共施設等の整備に活用できる基金が一定程度積み立てられたこと、また、財政健全化計画等によって単年度の収支状況が改善された状況等も踏まえ、令和5年度より進めていくことを判断したところです。

今後においても、財政運営基本方針や各種計画との整合を図り、住民サービスの低下を招くことのないよう十分に配慮し事業を進めていきたいと考えておりますが、事業を進める上において、様々な社会情勢の変化や新たに優先すべき事項が発生することにより財政状況が悪化することも想定されることから、事業の実施時期や事業費、事業内容等については、将来の財政状況に与える影響を見定めながら、身の丈にあった事業となるよう適時判断してまいります。

2 なぜ今整備をすることになったのですか？

駅周辺地区については、旧トピアビルや旧スマイルビル等の空きビルや空き店舗が増加し、空洞化が進行している状況です。このまま民間主導による整備を期待し、今後も行政による具体的な対策を講じなければ、駅周辺地区の空洞化がさらに進み、まち全体の機能維持が困難となるだけでなく、結果として、人口減少や少子高齢化に対応した持続可能なまちづくりを進めていくことが難しくなります。

そのため、駅周辺整備事業については、市の最上位計画でもある「滝川市総合計画」をはじめ、滝川市立地適正化計画が目指す将来像の実現に向けた事業の一つでもあり、事業の性質上、早期に着手すべきものであります。事業の効果は、一足飛びに表れるものではありませんが、今から将来に備えた都市基盤の整備を実行していくことが重要と考えております。

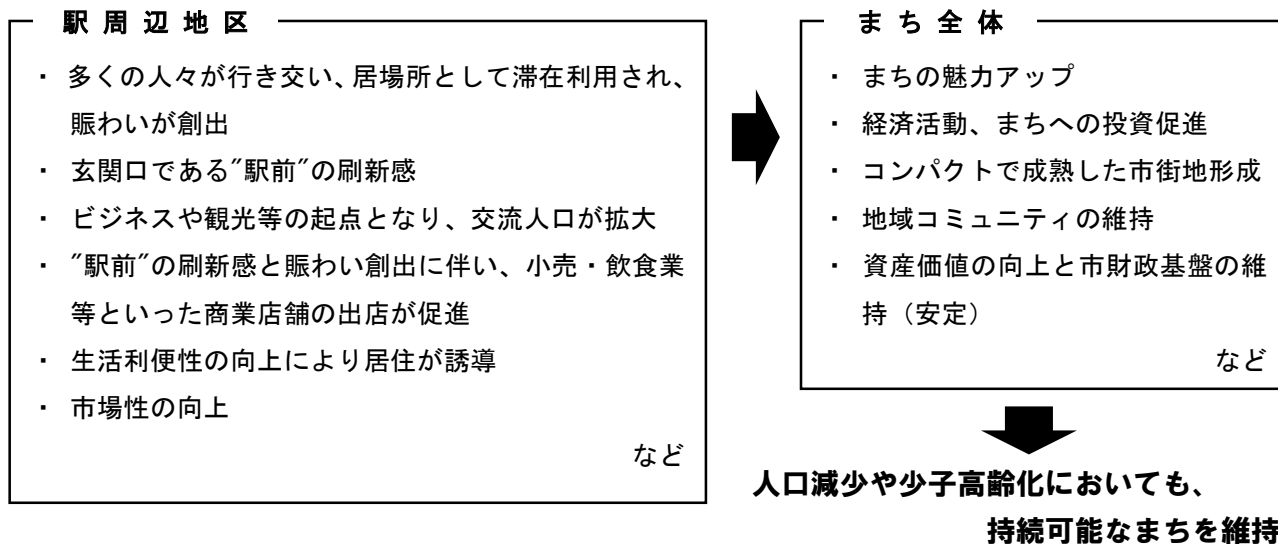
このことから、令和5年度より、駅周辺地区を新たな「滝川の顔」として再生するべく、令和5年12月に旧スマイルビルの全所有権を取得するとともに、滝川駅周辺地区再生整備基本構想を策定する中で、再生に向けた整備に取り組んでいます。

3 何のために整備を進めていくのですか？

人口減少や少子高齢化が進行する状況下において、安全安心な住みよい、「コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造」の形成を目指し、「拡大路線のまちづくり」から、「賢くコンパクトに向かうまちづくり」にシフトした取り組みを進める必要があります。

そのためにも、まずは、まちの玄関口でもある“駅前”に大規模な空きビルが点在し、建物から木々が自生するなど維持管理されていない状態を早期に改善し、また、イメージ転換を図ることが最低限必要と考えております。このことにより、駅周辺地区の不動産価値の維持や向上、民間投資を呼び込むための環境づくりを進めることで、関係人口の維持や経済効果等の派生を期待するものです。併せて、その効果をまち全体に波及させていくことができれば、まち全体の経済活動を支え、ひいては、市財政基盤の安定に寄与するとともに、生活に必要な機能や交通ネットワークの維持、確保を図っていけるものと考えております。

《 駅周辺整備事業の実施による期待する効果 》



4 基本構想では何を示しているのですか？

本構想では、滝川駅周辺地区の現状や課題を踏まえつつ、将来ビジョンや取組の展開方針を整理するとともに、具体的な整備方針として、導入すべき都市機能や整備の方向性（イメージ等）を示しています。

<整備方針に関すること>

- 整備地区編 -

1 今後ベルロード沿いの空き家を解体した場合、市からの補助が期待できるということでしょうか？

低未利用物件の機能更新に係る補助支援については、あくまで、民間事業者による開発等の相談、協議がある都度、支援検討を実施するものであり、補助要件等を定め、一律的に補助・助成等を実施、確約するものではありません。

2 旧トピアビル・旧小林ビルを整備する理由はなぜですか？

当該物件については、元来同一の法人が所有していた物件となりますが、その所有法人においては、破産手続終結によって既に登記が閉鎖されている状況であることから、事実上管理者が存在せず、今後適正に管理されていくことや積極的な物件の流通が期待できません。

そうした状況の中、物件の老朽化が著しく、駅前やまちの景観を著しく低下させる一因であること等も踏まえ、本構想に基づく整備事業において解決すべき課題であると判断し、官民連携のもと整備していきます。

- 再生拠点編-

1 旧中央バスターミナルの立地場所を（仮称）駅前市民駐車場として整備すると想定していますが、駐車場は必要なのでしょうか？

本構想における整備において、旧スマイルビル立地場所に（仮称）駅前交流施設を建設することも踏まえ、駅周辺地区に市内外を問わず多くの人を呼び込むためにも、交通結節機能の強化は必要であり、駅周辺地区に訪れる方々がそれぞれの生活スタイルに合わせた交通手段を選択できるよう環境整備を進める必要があると考えております。

2 今後人口減少が見込まれることから、新たに施設を建設するのではなく、解体するだけでもいいのでは？

本構想で設定する将来ビジョンを達成し、その整備事業効果をまち全体に波及させていくこと、また、将来に向けてコンパクトなまちづくりを進めていくことが駅周辺整備事業の本旨であることを踏まえれば、限られた財源の中で様々な施策を組み合わせた拠点整備を進めていくことが望ましいと考えております。

また、解体には多額の費用を要することが見込まれますが、解体後に公共機能として活用することによって、国の交付金制度を活用することも可能であり、財政面においても、効率的な整備が見込まれます。

3 旧文化センターにあったホール機能を含めた（仮称）駅前交流施設を新築するということですが、ホールの大きさは基本構想のイメージからの選択になるのでしょうか？

本構想における（仮称）駅前交流施設の整備については、あらゆる世代間の交流が推進される、日常的な居場所として賑わう交流施設を目的として、交流機能を中心とした機能としつつも、施設整備とソフト事業の組み合わせによる機能維持も含め、導入機能の候補全ての構成を目指すことを方針としています。

そのため、現段階において、具体的な施設概要を決定しているものではなく、本構想において記載した本編P28 「4-3(2)③想定される施設整備」にあっては、あくまで事例になります。

4 改修したほうが負担が少ないのではないのでしょうか？

(仮称) 駅前交流施設の施設概要については、次年度以降において、具体的な検討を進めるところであり、現段階、規模等も決定しているものではありませんが、今後の人口減少や少子高齢化の見通し等を踏まえると、現状の建物は過大であり、初期費用の低減を図ることができたとしても、維持管理費に負担が生じるものと考えております。また、ホール機能の導入にあたっては、改修に建築構造上の限界が生じることが想定され、改修等では効率的な整備が難しいものと考えております。

< 今後の取り組みに関すること・その他に関すること >

1 整備事業は今後どのように進めていくのですか？

令和6年度において、再生拠点の整備に関する与条件の整理を目的とした「滝川駅周辺地区再生拠点整備 基本計画」の策定に着手したいと考えており、整備する機能や規模、レイアウト、概算事業費の検討を進めるほか、施設の設計から管理運営までの事業手法に関する検討を進めます。その後においては、基本計画に基づき設計業務を実施した後、建設に着手していきたいと考えております。

2 整備事業の実施に向けて住民意見等を募ることはあるのでしょうか？

基本構想の成案策定に向け、令和6年2月13日から29日までの間において、原案に対する意見公募手続（パブリックコメント）、各経済団体等で構成する「滝川市中心市街地活性化協議会」による意見交換を実施しております。

今後、具体的な整備計画となる基本計画等の策定においても、関係団体や住民意見等の聞き取りも適時行いつつ、検討協議を進めていきます。

3 整備に係る事業費について、どのような財源を予定しているのでしょうか？

拠点整備にあたって、滝川市立地適正化計画を策定済であることから、導入する機能によって国の交付金（都市構造再編集中支援事業）や有利な地方債の活用することを想定しています。しかし、民間手法による事業となった際はこの限りではありません。